

世界遺産平泉・一関 DMO 通信 vol.1

■ 世界遺産平泉・一関 DMO 通信始めます！

一般社団法人世界遺産平泉・一関 DMO（松本数馬代表理事）は、行政・企業・団体と連携しながら一関平泉エリアを東北有数の観光地として確立させ、住民や旅行者が豊かさを感じられる“持続可能な地域経営”の推進を目指し、2018年（平成30年）4月1日に発足しました。昨年3月末、岩手県内では初となる「日本版 DMO 法人」に登録。観光地域マーケティング・マネジメントを展開していく多様な関係者との連携を密にしながら、より一層主体的な観光地域づくりを進めています。その具体的な活動の様子を、「通信」を通して皆様にご覧いただけたらと思います。

■ DMO（Destination Management/Marketing Organization）とは

地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりのかじ取り役として、多様な関係者と協働しながら明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた組織のこと。今年1月14日時点で、「広域連携 DMO」10件、「地域連携 DMO」72件、「地域 DMO」68件の計150件が登録されています。このうち、当 DMO は「広域連携 DMO」に位置付けられます。

■ 台湾における東北最大のプロモーション「東北プロモーション in 台湾」参加

台湾旅行社向け東北合同商談会「東北プロモーション in 台湾」に、昨年11月19-21日の日程で参加しました。東北から35団体、台湾の旅行社3地域で約170社が参加して行われました。これに先駆け、同17日には台湾の一般消費者向け「東北感謝祭」にも出展し、岩手県ブース内で一関・平泉地域含む広く岩手県南地域の魅力についてもPRしました。台湾の主要な旅行会社を直接訪問し、当地域の観光素材について情報発信しました。



■もちサミット→もちフェスティバルへ！ 名称変更し初の春開催

一関市から委託を受け、「もちフェスティバル実行委員会」（実行委員長・松本数馬世界遺産平泉・一関 DMO 代表理事）の事務局を担当しています。これまで「全国ご当地もちサミット in 一関」と銘打ち、秋に実施されていましたが、来年度からは「全国もちフェスティバル」へと名前を変え、開催時期も桜とともに楽しめる4月にリニューアルされます。

原則毎月1回実行委員会会議を開き、新たに制作されるポスター・チラシの図案作成や出店者の確定、同時開催される「夜の部」のイベントの内容などについて協議を進めています。

市内はもとより県内外から28の店舗が出店する予定です。

詳しい情報は公式フェイスブックページをチェックしてくださいね。

https://www.facebook.com/mochisummit/?eid=ARADvvcIFUepeeAbqbp-dTsw68tu7RUD6VEwzKXz8Rw8ilEqOxPW_RmC4NJAIr6OfXpuQfjDsbZSMO4



■農泊体験の在り方学び、外国人旅行客に魅力アピール



平泉・一関で日々増えている台湾からのインバウンド。旅行客に農泊を体験してもらうため、受け入れ側に必要なことを学ぼうと、当DMOが事務局を務める平泉一関エリア農泊推進協議会（田中修会長）は昨年11月、4日間の日程で台湾・台北、桃園両市で現地研修を実施しました。会員6人が農業体験を行っている施設を訪れ、直接現地の人と交流しながら台湾人が求める農泊体験の在り方などを学びました。

台北市内で開かれた「日本東北遊楽日 2019」の岩手ブースにおじゃまして東北に興味のある台北市民に直接平泉・一関をPRしたほか、農業体験施設を訪問し、もちつき体験などを繰り広げながら日台の文化交流も深めました。

研修を通し、台湾人が食文化、自然や地場産業を大切にしていることなどがわかりました。受け入れる側として、地域の中で大切にしていること、伝えたいことをしっかりと念頭に置きおもてなししていくことの大切さをあらためて実感しました。

発行元：世界遺産平泉・一関 DMO
(問い合わせ先：電話 0191-345-345)